

話す、聞く、食べる、飲む… 日常生活を守るために



OG VOICE

患者様への共感と
信頼関係を大切に
訓練を実施しています

回復期病棟や難病・障がい者病棟に入院されている、高次脳機能障害、発声・構音障害のある方々に評価、訓練を実施しています。退院後継続して来られる患者様にも外来を通して評価、訓練を行っています。大学で行った海外研修で言葉だけでは通じない経験をしました。この経験が失語症患者様への共感や信頼関係の構築に役立っています。より良い方法を探しながら、小児から成人まで多様なニーズに応えられる言語聴覚士をめざしています。



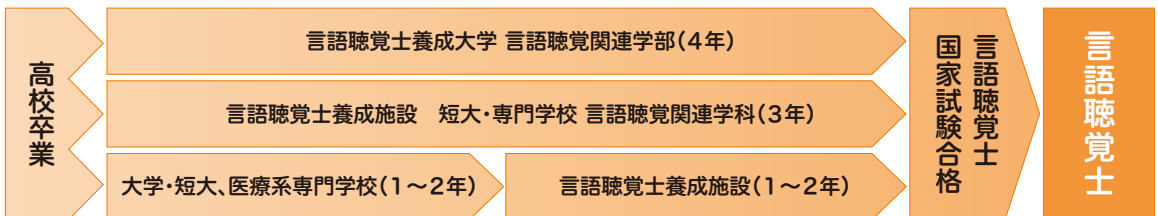
小室 真海さん
茨城県立医療大学附属病院
勤務
成田保健医療学部
言語聴覚療法学科 卒業

どうすればなれる？

言語聴覚士国家試験に合格することが必要です。

受験資格を得るには…

文部科学大臣、または厚生労働大臣指定の学校で3年以上学び、必要な知識・技能を修得する。大学、短大、専門学校で2年(1年)以上修業し厚生労働大臣の指定する科目を修めた者で、文部科学大臣、または厚生労働大臣の指定する養成施設で1年(2年)以上学び、必要な知識・技能を修得する。などの方法があります。



どんな仕事？

人間の尊厳、「ことば」の回復を図る

①ことば ②聞こえ ③声や発音 ④嚥下(食物の飲み込み)
の障害は、生まれつきのものから病気やけがによるものまで原因はさまざまで、小児から高齢者までが対象です。脳卒中による高次脳機能障害では、失語症など言語機能の回復のみならず、認知症など、その人の生き方や尊厳を守るためのリハビリテーションの有効性も認められています。

どこで働く？

医療福祉分野のほか、ことばの教室
などの教育分野や、企業などにも

- 病院・リハビリテーションセンター
 - 介護保険施設
 - 保健・福祉施設
 - 教育機関(特別支援学校、ことばの教室)
 - 企業(補聴器・福祉機器メーカー、NPO法人)
 - ボイスセンター
- など

仕事の展開と将来の展望

超高齢社会でニーズが高まる専門職

言語聴覚士は、日本では1997年に法制化された国家資格です。超高齢社会となり、老齢期の脳卒中などの後遺症による失語症や嚥下(えんげ)障害、認知症が増えており、言語聴覚療法を必要とする人は全国で650万人以上と言われるなか、有資格者は現在約40,000人。今後、社会的ニーズが高まり、医療のみならず、教育や福祉の分野にも活動の場が広がることが予想されています。